

あけましておめでとうございます

本年もご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます

友愛労働歴史館一同

【目次】

1. アーカイブ No.24

連載「日本労働会館物語」第 21 回 2010.12.24 発行の第 23 号に掲載
〈ユニテリアン教会機関誌『ゆにてりあん』から『六合雑誌』へ〉

2. 12/09(月)～11(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・「正道塾①」 17 名

3. 12/16(月)～18(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン
伝承塾「枝垂桜①」 6 名

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1. アーカイブ No.24

連載「日本労働会館物語」第 21 回 2010.12.24 発行の第 23 号に掲載

〈ユニテリアン教会機関誌『ゆにてりあん』から『六合雑誌』へ〉

ユニテリアン教会・惟一館が竣工した 1894(明治 27)年当時、ユニテリアン協会は機関誌『宗教』を発行していました。これはユニテリアン協会が 1890(明治 23)年 3 月に創刊した機関誌『ゆにてりあん』(惟一社発行)を、1891(明治 24)年 10 月の第 20 号で終刊とし、新たに 11 月から『宗教』として刊行していたものです。

一方、東京基督教青年会が 1880(明治 13)年に創刊した『六合雑誌』は、この頃、社会主義、社会問題を取り上げるようになり、注目されていました。「『六合雑誌』の研究」(同志社大学編)に掲載された佐々木敏二の論文「社会主義啓蒙誌としての『六合雑誌』」は、「1893(明治 26)年から 1896(明治 29)年 10 月、日清戦争の前後の時期に社会主義・社会問題論の中心が『国民之友』から『六合雑誌』に移行」と記述し、『六合雑誌』が新たに社会主義・社会問題をとりあげようになったと論じています(『国民之友』⇒明治中期の総合雑誌・徳富蘇峰が主宰)。

佐々木論文は①社会主義・社会問題論の中心が『国民之友』から『六合雑誌』に移行する時期、②『労働世界』が創刊されるまでの『六合雑誌』が社会主義の唯一の啓蒙誌であった時期、③『労働世界』と『六合雑誌』の共存する時期(1898年～1900年)、そして④『六合雑誌』が社会主義啓蒙誌としての役割を失っていく過程(1901年以降)について解説しています。また、1896(明治29)年11月の『六合雑誌』第191号に掲載された「社会主義の必要性」(大西祝)が、以後の『六合雑誌』の性格を特徴づけたとし、「次号から毎号社会主義論、社会問題論が掲載されるようになった」と記述しています。ここで『労働世界』とは高野房太郎や片山潜らが1897(明治30)年7月に結成した労働組合期成会の機関誌で、同年12月に発刊されています。

1898(明治31)年3月、ユニテリアン協会機関誌『宗教』は、東京基督教青年会機関誌『六合雑誌』と合併し、ユニテリアン協会発行の新『六合雑誌』となります。この合併についてマッコレーイ牧師は、『六合雑誌』第207号『『六合雑誌』と『宗教』の合併に就て』の中で、「其の目的は最も廣き意味に於ての社会学(略)、に関する最良にして而も最も實際的なる結果を日本国民に知らしむることによりて、その進歩を助長せんとするにあり、最も深き倫理研究の結論を主張するにあり」と述べ、さらに「ユニテリアニズムは、其の自由思想と真理に達せんと断えざる目的との外に於ては、常に変化しつつあり又斯く変化しつつ進歩すべし」と書いて、新『六合雑誌』はその「思想と実行とに於て発揚せんを期す」ための場であると記しています。

こうしてユニテリアン雑誌として、また社会主義啓蒙誌としての新『六合雑誌』が誕生し、これを拠点に安部磯雄、片山潜、河上清、岸本能武太、村井知至、豊崎善之助ら(何れも社会主義研究会会員)が社会主義、社会運動についての健筆をふるうこととなります。(文責間宮悠紀雄)

2. 12/09(月)～11(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・「正道塾①」 17名

労働組合の組織の強化を目的に、人材育成の一助として、運動家としての人間性と品格を高め、労働運動の精神を正しく継承できるリーダーを育成するためです。年間、二泊三日を3回にわたり、11講義、11演習、5視察から学びます。「歴史は未来の鏡である」「過去は変えられないけれど、未来は変える(創)ることができる」という様に、①日本労働運動の100年余の歴史 ②流通労働運動の歴史と今後の課題～政策と政治課題～ ③民主的労働運動を探る・労組の役割と責任 ④労働組合が政治・選挙に取り組む理由 ⑤次代の流通労働運動が抱える課題とその対処法 ⑥生産性運動三原則とコーポレートガバナンス ⑦リーダーの条件とは何か～リーダーに今求められているもの～ ⑧流通産業の動向と労使の政策課題 ⑨政治・選挙 労働組合の必須項目 等を受講しま

す。

第一回目は、UAゼンセン中央教育センター(友愛の丘:岡山)にて開催。センター長からゼンセン運動と労働運動の概略と歴史を受講。その後、藤吉館長から「受講にあたっての心構え」を確認し、演習を挟みつつ「リーダーの条件とは何か～リーダーに今求められているもの～」、「流通労働運動の歴史と今後の課題～政策と政治課題～」、「政治・選挙 労働組合の必須項目」などを受講しました。質問も活発に行われ、さらに二晩とも深夜に及び知識と懇親を深めました。

3. 12/16(月)～18(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン 伝承塾「枝垂桜①」7名

ダイエーユニオンの伝承塾「枝垂桜」の第二期がスタートしました。開催趣旨は、労働組合の組織の強化を目的に、運動家としての人間性を高め、労働運動の精神を正しく継承できるリーダーを育成するためです。年間、二泊三日を4回にわたり、15講義、12演習、7視察から学びます。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ。」あるいは、「歴史は未来の鏡である。」という様に、①日本労働運動の100年余の歴史 ②日本の労働運動から見た流通労働運動の歴史 ③株ダイエーの激動期における労組の役割と責任 ④労働組合と政治の関わり ⑤次代の流通労働運動が抱える課題とその対処法 ⑥民主的労働運動を探る・労組の役割と責任 ⑦実践できるリーダーシップ論⑧生産性運動三原則とコーポレートガバナンス⑨民社党の歴史・百折不撓などを具体的に考え受講します。

第一回目は、UAゼンセン中央教育センター(友愛の丘:岡山)にて開催。センター長からゼンセン運動と労働運動の概略と歴史を受講。その後、藤吉館長から「受講にあたっての心構え」を確認し、演習を挟みつつ「したい8原則と実践できるリーダーシップ論」、「労働組合とは？果たすべき役割」などを受講しました。各講義の中では、質問も活発で、また日ごろの労働組合活動での疑問など幅広く探求した様子でした。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

惟一館から130年、友愛会から112年